

【議案第1号】

指定管理者の指定について（浜田市三隅特産品展示販売センター）

議案第1号 指定管理者の指定について（浜田市三隅特産品展示販売センター）の指定管理者の選定について反対討論を行います。この議案は、浜田三隅道路開通に伴う交通量の減少などの売り上げ減少の影響で、清算された三隅ゆうひパークにある特産品展示販売センターの指定管理について、地方自治法に基づき議会の議決を求めるものです。

まず、第一に指摘したいのは、この3月末をもって、1市4町村による合併によって、全国の自治体で画期的な取り組みであった「浜田市の自治区制度」が終了する点です。旧那賀郡の4町村の急激な過疎化を回避するために取り組まれた自治区制度ですが、自治区制度があってもなお、その寂寥感は解消されたとは言えず、人口減少が加速している状況下での終了は、さらなる急速な疲弊を予想させます。

浜田市は、地域ごとのまちづくり計画や健康長寿計画、防災計画などに基づくまちづくりを進めるに当たって、地域への職員配置を行って、行政経験豊富な職員と地域の皆さんが協力して、まちづくりを進めなければ対応できないほど、急激な人口減少によって、多くの困難な問題に直面しています。

そういう状況下で、地域の皆さんが出資金を出して、地域の高齢者の生きがいつくりや、元気で長生きの健康長寿政策にもかなう、弁当づくりやその弁当配布で高齢者の見守り活動を実践している団体が、その活動の拠点として指定管理者に応募したにもかかわらず、今回落選するとは、浜田市のまちづくりは一体どこに向かって進もうとしているのか、私にはさっぱりわかりません。浜田市が抱える、介護保険料と医療費の高騰に挑戦する高齢者のこれまでの経験と知恵を生かした、いつまでも元気で長生き、誇りある人生という、ささやかだけれど、画期的な試み、こういう試みは、浜田市の模範となる取り組みとして、市内の他の地域に広げるべき、先進事例のように見えます。それに対して、浜田市はなぜ後押しをしないのでしょうか。

地域の皆さん、すなわち、市民自らが情熱と知恵を持って取り組もうとする、素晴らしい上に画期的な挑戦にもかかわらず、なぜ浜田市は、市民と一緒にまちづくりに取り組もうとしないのか、私にはさっぱりわかりません。

また、中山間地の集落は急激な高齢化と人口減少によって、耕作放棄地は増え、食料品や生活用品を買いそろえる店もなくなって、独居高齢者の食事の問題や医療難民や交通不便の問題を抱え、集落の消滅の危機に直面しています。公民館がまちづくりセンターに移行して地域のまちづくりの拠点になるとはいえ、その明確な効果も予測できていません。浜田市は、これから人口減少の中で、職員が何から何まで対応することは

令和3年1月臨時会議 澁谷 幹雄議員 反対討論

できず、市民の共助と公助という協力なくして行政運営は不可能でありましょう。それだけでなく、浜田市は人口千人当たりの職員数が12人を越えるという、類似都市比較でも驚くべき過剰な職員を抱えています。人口減少の中で、今の職員数のままであり続けることは、固定費の膨張を招き、その結果住民福祉の後退、それがさらなる人口減少の加速という負のスパイラルに陥ることは明白であります。どうしても、職員数は減らさざるを得ないのであり、しかしながら行政需要は増加するという二律背反の中で、市民の協力なくして、行政運営は不可能となることが、間近に迫っていると言わなければなりません。それなのに、なぜ、地域の皆さんの高い志によって、積極的な参加という心意気に対して、冷や水を浴びせるのか、私にはさっぱりわかりません。浜田市のまちづくりにおけるフィロソフィーとは、何なのでありましょう。浜田市は哲学のないまま、まちづくりを進めるのでしょうか。以上のような理由によって私はこの議案に反対するのです。